

主な登場人物



シャチョー
代表の西岡さん。元俳優で戦隊モノのリーダー役だったことも

ひゆう

東京店マネージャー。同じく元俳優で無類のアイアンマン好き

タイキ

チーフメカニック。ハーレー以上にラジコンの走りにこだわる



タツ
チーフメカニック。チョッパー乗りと思えぬほどマジメな好青年



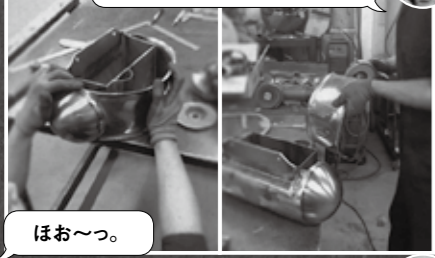
ヒロ
メカニック。最近散髪を命じられエグザイルに似てることが発覚

ウチのデザインは裏テーマがあるんです。リボルベールは古代ローマの戦車です。



馬で引く時代ですね。

内部のオイルラインまで考えてワンオフで作りました。



ほお〜。

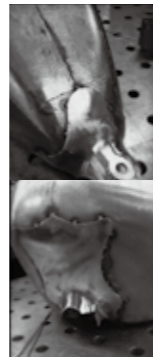
裏テーマです!



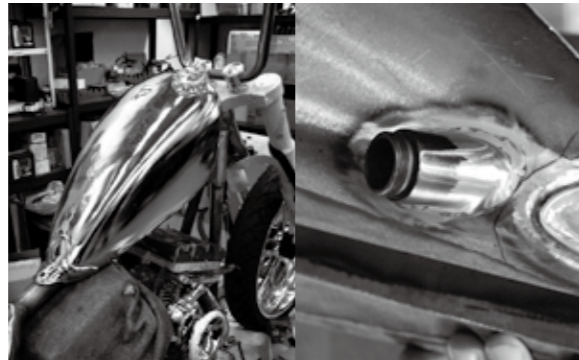
…………。



そしてフチには丸棒を溶接して整形。斬新に見えるけれど、この手法はオールドスクールのチョッパーにもリブのアクセントなどに用いられるもの。アルミの削りだし感満載になりがちなツインカムチョッパーに、手作りの温もりを与える重要なポイントとなるのです



ベースとなるデザインのパーツを作ります

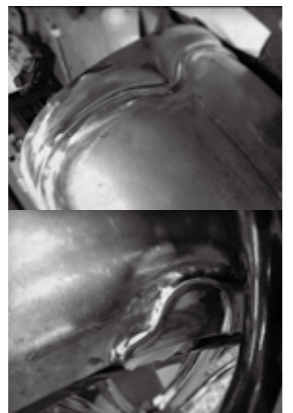


で、完成した図。写真じゃわかりにくいですがすでにニッケルメッキもかかっております。恐ろしいほど速い流れ作業。このままでもカッコ良いですがメッキを残すのは、ポルトがハマるラグの部分だけ。耐久性を求めゆるゆるの質沢なつくりであります

タンクを傾けて装着するチョッパーはガスコックの位置も重要であります。普通の位置だとガソリンが使いきれないことも。ラグを避けてガスを使い切れる位置を検討して写真の構造に。ちなみに、タンクのトンネル内にはオス型のマウントが設置され、正確な位置にタンクがマウントできるように工夫されてマス

見えないようにする、なども同様で、過去に培ったものと新たな挑戦が常に作品には同居していて、それがカスタムの見どころとなり、オーナーが毎日のように乗りながら、ショーバイクの美しさを保ち続けていられる秘訣となるのです。

今回の挑戦のひとつは、丸棒を溶接して仕上げるリブの加工。オールドスクールのにも用いられる手法は、車両のコンセプトに合うだけでなく、「ビレットの無機質な質感が目立つツインカムに、人の手が作る温もりのような柔らかい質感を与えてくれるデザインなんです」と西岡さん。当然、この後の最新作にも応用されたそうだけど、なんかショッパの発達史の一部を担ったようで、車両のオーナーとしても嬉しいものです。



Rフェンダータンクにあわせてこちらにも丸棒を溶接してフェンダーチップ風に。旧車のデザインと新たなアイデアが同居する場所なのです

スイングアームとフェンダーを結ぶマウントも同じ手法でアクセントを。この後タンクと同じくフェンダーにもニッケルメッキが施されます

タンクのカタチが出来上がったら、ラグ風のマウントの製作に入ります。こんな風にカットして曲げた板をつなげて溶接して…

ユースクールへと進化する過程のような雰囲気です。ポルトで締める部分は塗装だとうしても時間が経つと割れてしまいますから、メッキをかけましょう」と言う判断は、過去のカスタム製作から培われたもの。メッキの上にはペイントを重ねたり、オス型のタンクマウントでタンクの下部にステーが

「やっちゃいましょう」と西岡さん。渾身のタンクに躊躇なく穴を開け、吹き返し防止のダクトを給油口に設置して、ゆるゆるの「ガソリンは一番塗装を痛めますから」とカスタムタンクに、オーナーの思い勝ちを考えた細やかなつくりを施してくれました。日常で使えるショーバイクというコンセプトは、オーナーが使うことを考えたお・も・て・な・しにも表れるのです

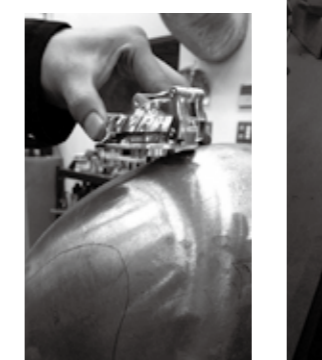


そしてリアフェンダーは分割して幅を広げた上で、LEDを埋め込む部分の製作であります。フェンダー幅いっぱいのLEDは既にありますが、タイヤのRに合わせて曲げて埋め込むのは大変なのです。[LED2つも壊しちゃいました(泣)]と西岡さんの談。実際に走る時は写真のようにタイヤのRに合わせて、トライザ製のLEDが輝きます。ハーレーにもオーディオみたいなテール…流行、る、かな?!



西岡さんが「もう手が痛くてハンマー持てません」というほど、渾身の美しいフォルムを手に入れたタンク。下のベースのスポスタタンクをためしに載せただけの写真と比べるとずいぶんシュッとしたのが分かりますね

先月から始まった渾身のカスタム製作記。第2回目です。前回はローリングシャシーになった状態でしたが、いよいよ外装の製作に入ります。ここで裏事情をお伝えしておきますと、「やりますよ!」つと西岡さんから連絡が来たのは、10月初頭に行われるホットロッドショーに間に合わせる、と言います。普通カスタムバイクって何か月とか何年とか、結構な時間をかけて作られるイメージがありますが、このバイクは、なんと製作期間1か月強。まあ、構想期間は2年ぐらいかかっているし、セレクトドのメンバー全員でかりつきり、の話ではありませんが、恐るべき速さと、チームワークで製作されたのです。そんな話を聞くと、どーせ細かいところが雑だつたりするんだろ、とか思うでしょうが、実は細かいところこそ、セレクトドのお・も・て・な・しが籠められていたのです



で、サイドにキャップをずらすには、美しいタンクのラインを崩さなくてはなりません。ここもせめぎ合いです



フォルムが完成すると次はキャップの位置決め。センターのこの位置が、ガソリンも上まで入れられてキャップが王冠のように見えるのですが、ハンドルのライザーなど丸いモノが集結しているように見えるのがなんとも……



上から見ると美しいアールモンド形に変化したのがよくわかります。小さいタンクはカッコ良いですが、高速道路で遠出できる最低限の量も確保しなければなりません。実用と美学のせめぎ合いのようです



【第十二回】
「やっつとできたよ、渾身のツインカムチョッパー製作記。」
「外装には細やかな」お・も・て・な・し」が秘められているんです編

協力/セレクトド TEL:03-6424-8285 www.selectdo.jp